

## 適正摘果で高品質生産を

### ～桃摘果講習会～

もも生産協議会（倉内信一会長）は7月18日、平川市の葛西理人さんの園地で桃の講習会を開き、生産者約40人が参加。適正摘果による大玉で高品質な桃の生産を確認した。

黒石基幹グリーンセンターの藤田俊也営農指導主任と中南地域県民局地域農林水産部農業普及振興室の福士泰永主幹が講師を務め、生育状況や摘果、今後の栽培管理について説明。藤田営農指導主任は「見直し摘果は7月中旬以降に最終的な個数調整のために行い、変形果や病害虫の被害果、小玉果、核割れ果などを優先的に取り除く」と指導。

福士主幹は「摘果を行う際は、せん孔細菌病の伝染源となる病斑がある葉と果実の処理を徹底してほしい」と呼び掛けた。JAでは、収穫始めを「あかつき」が8月10日頃、「川中島白桃」は9月3日頃を目安とし、こまめに園地を見回り収穫適期を判断するよう生産者へ呼び掛けた。



摘果について説明する福士主幹（右）



桃の規格を確認する生産者

チェックして収穫適期を判断するよう指導した。また、せん孔細菌病など病害虫を発見次第処分することや降雨が予想される場合は雨前散布を徹底するよう呼び掛けた。

## 桃「あかつき」適期収穫を

### ～桃出荷説明会～

7月26日、平賀東部りんごセンターで早生桃の出荷説明会が開かれ、生産者約40人が参加。高品質な桃出荷のために着色、熟度、硬度、形を確認した。早生品種「あかつき」の収穫は8月中旬から本格化し、8500箱（1箱5㍑）出荷予定。早生、中生、晩生合せて4万5000箱の出荷を目指す。

生育は平年より早めに推移。説明会では、早生桃「あかつき」の収穫期の目安は8月中旬であることや熟度をこまめに

チェックして収穫適期を判断するよう指導した。また、せん孔細菌病など病害虫を発見次第処分することや降雨が予想される場合は雨前散布を徹底するよう呼び掛けた。

## 販売目標 5 億円 超え

### ～ときわにんにく出荷式～

ときわにんにく部会（對馬伸吾部会長）は8月2日、令和元年産「ときわにんにく」の初出荷を記念した出発式を常盤にんにくセンターで開いた。部会員、JA関係者ら約70人が参加し、にんにく約3㍏（1箱/10㍑）の初出荷を見守った。

同部会の約130人が昨年秋に81畝作付けし、6月下旬から収穫が始まった。元年産は大玉傾向で、Lサイズ（平均球径6㍑以上）の割合が高い状況となっている。来年7月までの1年間で約370㍏の出荷、販売額5億を目指す。

村上勝憲販売担当常務は「春からの干ばつが生育に影響しないか心配されたが、概ね大玉傾向となった。にんにくの生産者と収量は年々増えており、JAでは販売の強化に努めていく」と話した。

對馬部会長は「今後は体調を整え、調整出荷作業に努めよう」と呼び掛けた。

集まった参加者は配送の安全を祈願し、東京の市場に向けて出発したトラックを見送った。

出発式後は目揃い会を開き、部会員らは出荷に向けて規格などを確認した。



運送トラックへにんにくを積み込む職員